

令和5年度
第2回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会
次 第

日 時 令和5年7月24日（月）
午後2時から
場 所 上田市役所連結棟
202・203会議室

出席者 沓掛副会長（青木村教育長）、安達委員（上田市教育長職務代理人）、龍野委員（長和町教育長職務代理人）、峯村委員（上田市教育長）、藤田委員（長和町教育長）、小林委員（東御市教育長職務代理人）、片田委員（青木村教育長職務代理人）、永井委員（上田市立東小学校長）、川口委員（上田市立丸子北中学校長）、両角委員（上小PTA連合会会長）

教科責任者（調査研究委員長）

国語・書写 菊池（上田市立城下小学校）、社会・地図 小川（上田市立塩田西小学校）、
算数 中山（上田市立長小学校）、理科 金井（東御市立祢津小学校）、生活 春原（上田市立北小学校）、音楽 山口（長和町立長門小学校）、図画工作 千原（上田市立豊殿小学校）、
家庭 高見澤（上田市立豊殿小学校）、保健 蓑輪（東御市立田中小学校）、道德 原沢（上田市立西小学校）、英語 磯尾（上田市立丸子中央小学校）

事務局（上田市教育委員会学校教育課） 長田、加々井、岩下

○会長代行（副会長） それでは、国語について、担当していただきました調査研究委員会の用意をお願いいたします。

ご苦労さまです。では、国語について担当していただきました調査研究委員長、自席で結構ですので、結果の報告をお願いいたします。

○国語教科責任者 城下小学校の菊池です。本日は、よろしくお願いいたします。

私のほうからは、国語と書写の2冊、2種類の報告をさせていただきたいと思います。

まず、国語の教科書についてですけれども、各社共に、学習指導要領の国語の目標を達成するために必要な内容がきちんと盛り込まれていて、それぞれの单元ごとの関連性とか連続性といった点も加味しましたが、これも系統的に配置されているように思いました。

また、他教科との関連性も各社共にしっかりとなされていて、教科横断的に学びを進めることがで

きるのではないかというふうに委員で話し合いました。

中で3社で差が出たものとしては、まず読みやすさという点になります。2番、児童の学習の中の学習意欲ですとか、言語活動を踏まえた工夫ですとか、文字の大きさ、読みやすさといった点で差が生じてきました。

光村教科書を中心に説明させていただきますと、まず光村図書では、フォントが読みやすい、易しい文字であるということ、大きさも大変読みやすい大きさであるということ、余白や行間の取り方も読む子供たちにとって抵抗の少ないものであるということ、またそれぞれの単元、特に1年生の最初の頃ですとか、2年生の最初のあたりでの文章の量が適正であることにより、子供たちは楽しく主体的な学びに意欲を持てるのではないかというふうに判断いたしました。

続いて、学習への配慮等に関わってきますが、どの教科書会社も見通しを持って学習できるように展開例が示されていました。主体的な学習の実現を考えての学習の方向性がきちんと示されていました。その中で光村図書は、問い、目標といったものをそれぞれの単元の最初に位置づけて、捉えよう、深めよう、まとめよう、広げよう、そしてさらには大切なポイントは生かそうなど、きめ細やかな単元展開が繰り返しなされている点で、児童が学び方をしっかりと把握して、さらに発展的な視点で学習していけるのではないかというふうに評価いたしました。

また、説明文の学習では、光村図書の場合は、多くのケースで第1教材と第2教材、2つの教材が載っていて、最初の第1教材で学び方をしっかりと心得て、第2教材では自らその学習方法を糧にして、自分自身で学習を進めていける、そんな展開になっていました。この進め方は、他社にはないスタイルで、教える側も学ぶ側も充実したものになるのではないかというふうに思いました。

それから、確かめようというところでは、既習内容がここにありますというような表示があり、それについても子供たちが学習を振り返る、フィードバックするという点で有効かと思われます。

さらに、漢字についてですけれども、新出漢字は本文に出てきている言葉そのものを利用して漢字を覚えるという方式になっていました。また、その場で出てきた読み方だけでなく、今までに習った読み方ですとか、他の読み方も同時に示されていて、言葉の習得にも有効であるというふうに思いました。

さらに、情報について扱っている単元があり、時代に合った、合致した内容となっていて、これも評価の一因として挙げました。

ローマ字の学習もどの教科書も対応していましたが、パソコンの入力といった点にもつなげて関連させている点について、実際に子供たちがローマ字を使う場面と直結しているように思いました。

そして、話合いの学習では、話合いの方法が提示されていたのですが、他社に比べて簡潔な示し方で、かつ話合いの内容も分かりやすいものとなっていて、子供たちは話合いの学び方、話合い方などがその例を読むことによって、しっかりと掌握できるのではないかというふうに思いました。

また、どの教科書にも2次元コードが出ていて、それを端末に当てると、動画や写真などが確認で

きるような工夫がされていたのですが、幾つかの動画、写真等を見たところ、光村図書の動画が大変豊かできちんとした内容だったというような意見が出されました。

ということで、委員の話合いの結果、国語の教科書は光村図書が全般的に、総合的によいのではないかとということで選定させていただいております。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、ただいま報告いただきました国語につきましてご協議をいただき、選定をしてみたいと思います。

ご意見、ご質問はございますか。

○委員 質問を1点させてください。

光村を選定した理由の一番最後に、(1)の黒ポツ3番目に、戦争を題材にした教材が3年生以上の学年にもあるということ、ご記入をしていただいておりますが、国語の教科用図書は、戦争に関わる題材が多く盛り込まれたほうがよいという解釈でよろしいですか。

○国語教科責任者 多いというよりも、委員の中では、各学年で一度戦争に関わる題材を通して文学ですとか、そういったところを通して学ぶ場があると、より豊かに、その当時のイメージもそうですが、学べるのではないかとということで、数が多いということではなくて、3年生以上のところのどの学年にも、戦争を題材にした、戦争を背景にした教材があるということで、子供たちに考えさせたい内容もそこにつながっていくのではないかとというような意見が出ていました。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） ほかにいかがですか。お願いします。

○委員 今の選定した理由の一番最後の行にありますデジタルコンテンツの内容が豊かというふうに書いてもらっているのですが、ちょっとこれ具体的に教えてもらえますか。

○国語教科責任者 先ほどの説明が不十分だったかもしれませんが、それぞれの教科書にデジタルで映像や画像を見ることが可能な情報源がついているのですが、各社比べたところ、他社は写真だけのよう内容のものもあったのですが、光村図書の場合、動画がかなり多用されていて、より豊かなイメージや発展した学習に具体性を持ってつながるのではないかとというような判断で書かせていただきました。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） では、特にほかにないようですので選定に入ります。

国語については、今報告されたように光村図書出版の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、賛成多数と認められますので、国語については光村図書出版の教科書を選定することといたします。ありがとうございます。

では、続きまして、書写について発表をお願いいたします。

○国語教科責任者 書写について報告させていただきます。

こちら各社共に目標を達成するために必要な内容がきちんと位置づいていて、単元、文字の配列も適切であるというふうに感じました。基礎的な技能についても学年に応じた内容となっており、学年内でもだんだんと高度な内容へというふうに流れていたり、文字の数もそんな形で工夫されていたりして、甲乙つけがたい内容だったように思います。また、どの会社も習字をするというだけでなく、日常生活の中にある題材、ポスターですとかお便りですとか、様々な分野での文字に関わる関心を高めるような内容を取り入れている点でも評価できるなというふうに感じました。

そんな中ですが、文字や挿絵、図表や写真などが配置されている中で、ポイントというようなものが必ず出てくるわけですが、光村さんの場合は、工夫されているのが、子供たちが楽しく可視化された中で、コツをつかめるというような点です。例えば猫のキャラクターがどの学年でも出てくるのですが、まず音でスー、ピタッというような子供たちが捉えやすい表現で筆の動かし方を表現していました。また、そのスーとかピタッという動きが猫の体のイラストを使って筆が動く向きや形を表現していて、子供たちも常にイメージを持って取り組めるのではないかなというふうに感じました。

それから、光村と東書は、低学年が特にそうなのですが、教科書自体が直接書くことのできるワークブックとしても機能していて、そのお手本を見ながら、教科書に書き込むスタイルが活用されていた点で、教える側も準備等教科書で賄えるということで、やりやすさもありますし、お手本が近くにあるので、ポイントもつかみながら練習できるというような、実践的なものになっているかなというふうに思います。

それから、光村さんは中とじがついていて、SDGsブックですとか書写ブックというような付録的なものがついていました。文字を通して、どんなふうに文字が活用されているかですとか、世界の中でこういうことが今必要とされているといったような、時代や生活に密着した内容を豊かに取り入れている点でも、意識の高さを痛感した次第です。

また、学習のしやすさ、子供たちが学びやすいかどうかという点では、お手本のページに書き順が小さく数字で書かれています。これも子供たちの支援になるのかなというふうに思いました。

また、穂先の動きが書道では大事になってくるのですが、穂先が濃くなるように、色の濃淡で筆の動かし方が捉えられるようになっています。朱墨のお手本と黒い墨字のお手本が両方示されることによって、文字の完成した形と筆の動かし方、両方の点から子供たちはコツをつかむことができるのかなということを感じました。常にポイントを意識して書くことで、より豊かな文字へと子供たち自身が発展していけるのではないかなというふうにも感じています。

このような点から、僅差ではあったのですが、光村図書の書写で学んでいくことを選定させていただきます。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

ただいまご報告いただきました書写につきまして、選定をしてみたいと思います。

ご意見、ご質問について、よろしくお願いします。

○委員 お願いします。大人でも家庭生活において毛筆で何かを書くということは機会が少ないと思うのですが、光村の教科書は、学校生活以外でも子供たちに毛筆で書くことの意欲を持たせる内容になっていますか。

○国語教科責任者 毛筆に限ったものではないのですが、文字を書くという点で、様々な分野で書くことの楽しさや大切さを伝えていました。どの学年でも、今度、水書というのが入ってきていて、1年生の頃から墨をつけずに、筆をぬらして水書板のところに書く体験みたいなのは、どの教科書でも1、2年生で入ってきていたので、そんなことで3年生になって急に筆を持つてという学習ではなくて、低学年の頃から慣れ親しむというようなものが取り入れられていました。

光村が習字、筆を持った習字に日常生活にという点では、ちょっとすみません、まだ見切れていません。申し訳ありません。

○委員 もう一点いいですか。SDGsブックはなかなかいいと思うのですが、他の2社はSDGsについては扱っていないのですか。

○国語教科責任者 社会情勢的な、社会の中でポスターとかそういったものが出てきているのですが、手厚くしっかりと数ページに及ぶ資料があったのは光村図書になります。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） ほかいかがでしょうか。

○委員 選定の経緯の中で下から4項目めですか。他の教科との関わり（社会科や外国語等）が意識され、教科横断的な学習が可能となっているということについては、これは3社ともうほぼ大体同じようなレベルと思ってよろしいでしょうか。何かどこか特徴が、もしどこかあれば教えていただければと思います。

○国語教科責任者 この点については、各社ともに意識が高く、教科横断的な学習ができるように、英語や社会、生活、総合などいろんな教科のつながりが出るような内容が同等に出ていたように感じています。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） 特にないようですので選定に入りたいと思います。

書写につきましては、光村図書出版を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

賛成多数でありますので、光村図書出版ということで選定いたします。ありがとうございました。発表ご苦労さまでした。

続きまして、社会について担当していただきました調査研究委員長さん、自席で調査研究結果の報告をお願いいたします。

○社会教科責任者 それでは、よろしくお願いします。

まず、教科書の方からお願いいたします。教科書は、東京書籍と教育出版、それから日本文教出版の3社の中から検討させていただき、東京書籍の「新しい社会」が最適ではないかということで選ばせていただきました。

その理由ですが、まず、身近な社会的事象から問題解決的な学習を通して発展的な学習につながるよう工夫されており、よりよい社会づくりに参画、貢献しようとする意欲や態度が育てられるように配慮されて作成されているということであります。現行の学習指導要領では、主体的、対話的で深い学びということが打ち出されています。深い学びにおいては、教科の見方、考え方を働かせるというふうにあるわけですが、このことにつきまして、東京書籍は工夫され、丁寧に扱っております。働かせる、見方、考え方の4種類のマークを設定し、各ページに配置しています。さらに、働かせる、見方、考え方を視点に資料の読み方、見学の仕方などが明記されており、子供たちが見方、考え方を働かせて追究できるような配慮がされています。

また、社会的事象の相互の関連や意味を多角的に考え、選択判断したことを適切に表現できるよう、学習場面の構成が配慮されていると捉えております。何を学ぶかということも大事なのですが、学び方、どのように学ぶかということも大変重視されております。

他社もこの点について配慮はされていますけれども、研究委員会では東京書籍のほうは大変分かりやすく丁寧であるという意見が出されました。

東京書籍は、つかむ、調べる、まとめる、生かすと学習段階が明示されており、見通しを持って学習を深めることができるように工夫されています。全小単元のまとめる場面では、文章でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動が重視されており、習得した知識を定着させ、思考力、判断力、表現力を育てるように工夫されております。また、まとめ方も地図にまとめる、キャッチコピーやカードにまとめるなど、学年の発達段階や教科の特性を考慮した工夫されたものになっております。

また、社会科学習で大切な資料であります。東京書籍の資料、写真や挿絵、グラフなど大きく見開きで並べて提示するなど割りつけの工夫がされており、見やすい配慮がされております。また、キャプチャーによって、この地図や資料がどういうものであるかということが端的に示されています。

資料を活用する上で子供たちにとって、捉えやすくなっているのかなというふうに思います。

また、2次元コードがページの同じ場所に同じ色で配置されており、どんなコンテンツにつながるかということについても明記されており、児童が使いやすいように配慮されています。

このような理由により、我々、私も含めて5名の社会科調査研究委員会全員で、東京書籍の「新しい社会」を選定させていただきました。

説明は以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、ただいま報告いただきました社会につきまして、ご協議をいただきたいと思います。

ご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員 質問をお願いします。社会科は補助資料もあるのですよね、紙の。補助教材を各学校で使ったりすることが多いと思うのですけれども、そのほかに東京書籍の魅力として2次元コードが至るところに豊富にあるということなのですかけれども、2次元コードで動画、画像等調べるために紙の補助教材のほうが調べるのが速いのではないかと思いますのですけれども、たくさんあったほうがいいのですね。

○社会教科責任者 本校で言いますと補助教材は使っていません。教科書のみですが、それは各校によって違うと思います。ただその中でも東京書籍は、どのような資料か分かりやすく明記されているので、子どもたちが目的に合わせた資料を選択するといった力にもつながるのではないかと思います。

○委員 確かに同じところに2次元コードがずっと書かれていますよね。他社にはないところだと思いますので、ありがとうございます。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員 では、もう一ついいですか。

○会長代行（副会長） お願いします。

○委員 分かりやすい説明ありがとうございました。東京書籍は、他社と比べて「主体的・対話的で深い学び」の視点で、授業が一番しやすい内容になっているという解釈でよろしいでしょうか。

○社会教科責任者 はい。

○委員 分かりました。

○会長代行（副会長） よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） ほかにないようですので、選定に入りたいと思います。

社会につきましては、東京書籍の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

社会につきましては、東京書籍の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

では、引き続き地図についてお願いいたします。

○社会教科責任者 それではお願いいたします。

地図帳は、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」と東京書籍の「新しい地図帳」の2社のほうから比較選択して、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を選定させていただきました。

帝国書院は、学ぶ上での地図資料はもちろんなのですが、関連するグラフや図表が十分備えられており、児童が主体的に学習を進めていくのにとっても向いているということが全体の印象です。

委員に大変好評だったのが、広く見渡す地図です。情報量が抑えられ、すっきりとしていて、3年生から6年生まで誰にでも見やすいよう配慮されています。大変使える地図となっているという点で好評でした。

3学年からの利用も考慮し、発達段階に応じた学習に対応できるよう配慮され、学年に応じた活用ができ、様々な角度から学習できるよう配慮されています。特に地図の入門期の3年生にとっては、楽しく地図の約束を学べる配慮がなされており、委員の評価が高かった点でありました。

最新のデータを反映した主題図や統計資料も非常に豊富です。問題提示や着眼点を吹き出しや囲み枠で配置して、選んでテーマ学習ができるように配慮されています。統計資料も主要なものは見開きページの中に、帯グラフも掲載されて、視覚的にも分かりやすくなっています。

東京書籍と比べて一番違うなと思った点は、配色や見やすさです。それぞれの地形図が帝国書院のほうが多角的に明るく鮮明な色調でまとめられている点です。標高等土地利用で色分けされていて、非常に読みやすいです。特に高低差については、帝国書院は大変分かりやすくなっております。そういったところもやはり帝国書院のほうが良いのではないかという委員の意見であります。

各地方の地図では、土地の高さによる色分けと土地利用による色分けがなされた地図表現にされていたり、資料図では、土地利用と産業の要素を重ね合わせる、グラフ資料を併記したりすることで関連した考察が可能になり、地域の特色を捉えやすいように工夫されています。

また、委員から大変評価が高かったのが、2次元コードのリンク先にある各都道府県の地図です。市町村の白地図、地形図をはじめ、地形図に交通の様子を重ねたり、交通地図に産業を重ねたりしてある地図となっており、社会的事象を関連づけて考えるための工夫により、社会的な見方、考え方を働かせて学べるように配慮されております。

以上の理由から調査委員会としては、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を選定いたしました。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございました。

ただいま報告いただきました地図につきまして、ご協議をいただきたいと思います。

ご意見、ご質問、いかがでしょうか。

○委員 ここに書かれていないかもしれないのですが、4年間使うということで、その装丁とか強度
というか、そんなのはどうなのでしょう、2社比べてみて、ほぼ連日ランドセルに入れて、毎年200日
近く行ったり来たりするわけなのですから。

○社会教科責任者 そうですね。地図帳ですと、大体教室に据置きというか、毎日持ち帰るものでは
ないので、大きさは東京書籍も帝国さんも同じで、厚さはやや帝国さんのほうが、ややという程度で
すけれども。

○委員 強度はそれほど問題ないと。

○社会教科責任者 問題はないと思います。

○委員 帝国書院は東書に比べると、私も委員長さんがおっしゃるように、立体感のある地図表現、
これが一番の魅力で印象に残っています。逆に、帝国書院、東京書籍よりも30ページ分ページ数が多
いのです。ページ数が多い分、情報量が必然と多くなると思うのですが、子供にとって調べにくくな
ったり分かりにくくなったりするのではないかということです。

○社会教科責任者 委員の先生方の意見も含めてその辺については問題ないのかなと思います。増え
ているところは恐らく、3年生の丁寧に地図の約束などの入門期のところが丁寧に示されているのと、
それから、先ほど最初に説明しましたが、広く見渡すという、このところがやはり東京書籍さんには
ないところで、この分なかなと思います。そこが逆にとても東書の魅力というか、強みになって
いるのかなというふうにも受け止めておりますが、それによって学びにくさというのはないと思いま
す。

○会長代行（副会長） よろしいでしょうか。ほかにございませんか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） では、特にないようですので選定に入りたいと思います。

地図につきまして、帝国書院の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙
手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、賛成多数ということで、地図につきましては帝国書院の教科書を選定することといたし
ます。ありがとうございます。

ご苦労様です。よろしくお願いします。

それでは、算数について担当していただきました調査研究委員長、調査研究結果の報告をお願いい
たします。

○算数教科責任者 それでは、よろしくお願いします。長小学校の中山ですが、お世話になります。
よろしくお願いします。

今回、委員のほうでも、どの教科書も今回の改訂では学びやすいように工夫はされているなという

意見は出たのですけれども、啓林館と東京書籍が最終的に候補に上りまして、委員会のほうでは、啓林館のほうを選定させていただきました。

理由のほうは、書いてあるのも含めまして何点か私のほうから説明させていただきます。まず、1点目としては、非常に系統性が重視された学習内容や単元構成にもなっており、軽重もつけられているので、学びやすさがあると委員のほうから多く意見が出されました。

2点目です。単元の導入なのですが、どの教科書会社もそうなのですが、特に啓林館さんは数学的な活動を積極的に取り入れる工夫がされていて、児童自らが学習課題を持ちやすくなっているなど、です。ので低位生も追究しやすくなっていくという点でいいなという点と、4年の面積の求め方なんかもそうなのですが、マスを数えるとか、それだけではなく（図を）重ねるとか、多様な学びができるように工夫されている点がいいなということで意見が出されました。

3点目です。どの会社も数直線を使って考えるというのは非常に多いのですが、啓林館さんは関係図ですとか表も提示してあるということで、児童が多様な考えを持てるように配慮されている点がいいのではないかと、特に6年生の分数割る分数ですとか、分数倍ですとか、そういったところで数直線以外に考える基になるものがあって、考えやすいのではないかなということが出されました。

4点目、非常に吹き出しなんかをうまく使って、ヒントや考え方の説明が非常に精選されている、逆に言うと、他社は非常に情報量もあり丁寧に説明がされているのですけれども、それがかえってよくないというか、学びを止めてしまうのではないかとということで、啓林館さんはその辺が非常に精選されているので、児童が主体的に活動しやすいのではないかとという点です。

次、5点目ですが、既習の学習内容が繰り返し学習できるようになっているということで、単元末の練習ですとか、学びのまとめですとか、巻末にはもっと練習なんていうのもありまして、基礎学力の定着を図られるよう工夫されていますし、もう少し勉強したいなという人は、もっと練習というところでたくさん勉強できるようになっているというところがうまく工夫されているのではないかなということです。

あと、6点目、まとめのところなのですが、どの会社もまとめは丁寧に書かれているのですが、啓林館さんは大事なところをポイントを絞って、ここだけは押さえないといけないところをまとめてあるという点が、子供がまとめをしやすいのではないかといいのではないかなということです。

あと、7点目は、挿絵についても資料等多過ぎずというか、すっきりまとめられているので、見やすくなっている点がいいのではないかなということで、啓林館さんを最終的に委員会としては選ばせていただきました。

以上になります。よろしくお願いします。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

今報告いただきました算数につきまして、ご協議をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 お願いします。算数はほかの教科に比べると、自由進度学習という新しい学習方法を、教科によっても一番早くやっている教科かなと思うのですけれども、自由進度学習にこの教科書が十分対応できるというか、適しているというようなポイントをちょっと教えていただければます。

○算数教科責任者 先ほども申したのですけれども、低位生にとっても学びやすいですし、さらに追究していこうという子に対しても、そういう問題設定がありますので、そのところが生かしていけるのではないかなと思います。

○委員 お願いします。大日本図書以外の教科書、私の記憶が定かであればそうだと思うのですけれども、大日本図書以外の教科書は、全ての上下2冊に分かれているのです。前に戻って既習の内容を復習する際に、分かれていないほうが便利と思うのですけれども、その点についてはどうでしょうか。

○算数教科責任者 そうですね。確かに啓林館さんは5、6年生のところは、今回1冊にしているのです。東京書籍さんは5年生2冊（6年生1冊）なのですけれども、前の教科書をまた持ってきて見直すとかというところで、すごく薄くなっていますので、持ち運びもいいのではないかなということが出され、今回、我々もその点についても議論したのですが、啓林館さんのほうが、分かれていないので使いやすいということで、選ばせていただきました。

○委員 議論されていればいいです。

○委員 小学校の算数でつまずきやすいというか、理解がなかなか思うようにいかなくて、算数嫌いになってしまう単元があるのです。それは、割合であり比であり、単位量当たり、それから距離と速さと時間とか、このような単元が非常に子供たち苦しむわけです。これ理解しやすいように、各種配慮されていると思いますが、啓林館は特にこの点について配慮しているというのはどのような点でしょうか。

○算数教科責任者 その点も大分話題になったのですけれども、特に5年の割合のところの位置が、割合の前後のところ、啓林館さんより、東京書籍さんのほうが少しやや重いものが並んでいるということで、教える側としても、やはりそのところが非常に大変で、子供たちもそこで苦しんでしまうので、若干そのところを少し啓林館さんは考えて配置してあっていいのではないかなという意見が出されましたが、あとは先ほど挙げたように数直線だけではなく関係図を使ってみたり表を使ったりという、そのいろんなパターンで指導ができるような工夫はされているなということで、今回、啓林館さんを選ばせていただきました。

○委員 2番の適当と認めた理由の2の（3）のところに、東書のことで、具体的な買物や生活体験場面から問題提起が図られるようにというふうに東書のほうは書いてあるのです。多分これは、反対側に、啓林館を意識して書かれたかと思うのですけれども、そういう中で啓林館を選んだ理由というか、何か実際やってみて、啓林館って頭の中身から入っていくというか、具体ではなくてという意識がすごくあって、こっちが前に出すと苦しいなというところがうんとあったのですけれども。

○算数教科責任者 先ほどもちょっと述べたのですけれども、具体的な場面という点では東京書籍、その辺はいいのではないかということで、東京書籍をという話も確かにあったのですけれども、やはりそれを（単元を通して）継続していくために、その後の問題の数値も難しくなっていきますし、計算が非常にややこしさを増していつているので、途中のところが難しくなって、低位生がそこでつまずきやすいのではないか。導入として、非常に分かりやすさはあるのですけれども、その後、それを追究していつているところが結構ありまして、その点（数値が）少し分かりやすくなっている、現実的な場面からもちょっと外れていても、学びやすさはそちらのほうがあるのではないかということで、啓林館さんのほうを推させていただきました。

○会長代行（副会長） よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） では、特にないようですので、選定に入ります。

算数につきましては、啓林館の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、賛成多数と認められますので、算数については啓林館の教科書を選定することといたします。ありがとうございます。

では、続きまして、理科について担当していただきました調査研究委員長さんの報告をお願いいたします。

○理科教科責任者 それでは、お願いいたします。祢津小学校の金井と申します。よろしくをお願いいたします。

小学校理科の教科書ですが、一般社団法人信州教育出版社の「楽しい理科」を選定いたしました。

「楽しい理科」を選定した理由を7つほど挙げさせていただきたいと思います。

まず、長野県の自然や地形、身近な事象について多く取り上げられていることで、児童の興味関心、親しみをもちやすい教材が扱われています。見たことがあるとか行ったことがあるという形で、その教材に親しみを持つことができます。実際、私の経験なのですけれども、前任のほうは長野のほうへ行っていましたけれども、そちらのところで犀川のところの石灰岩ですか、ちょうどその横を通ったときに、「あっ、これ見たことある」というそういう親しみみたいな形が持てるという部分では、信教さんのほうの資料のほうはいいかなと思っています。

それから、2つ目として、主体的で対話的な学びにつながるように、吹き出しの言葉によって問題意識を持ったり、問題解決の見通しを持ったりすることができるように構成されていると、このコメントのところ、その単元通して読んでいきますと、気づき、疑問、それから考え方のヒント、それから実験観察のポイント、それから次に何をしていけばいいかというような、そのようなコメントが記

載されています。ですから、前時の既習知識からどんなことを考えながらその単元でどんな知識を得ていけばいいのかということが道筋がイメージされやすいのかなと思っております。教科書を見ながら自分で考えることができるのかなと、そんな形で考えております。

3つ目としまして、安全面の配慮について、各学年の教科書の巻頭に記載されております。単元内の、当然実験観察でも繰り返し指導ができるように配慮されています。それぞれのうち、単元のところの実験観察のところでは、ちゃんと注意事項は書かれているのですが、教育環境という立場から、その巻頭に書かれていて、年度当初に指導できるというのはこの信教さん、それ以外のところは大体巻頭、または中ほどに実験が増えてきたところで載せられていますので、そういう意味でも、例えば安全面のほう、最初から指導が行き届いているなというふうに感じます。

4つ目としまして、誰もが問題解決学習を指導できるように、学習を進め方というのが丁寧に示されており、児童の思考や考えを大切にしながら、見方、考え方が身につけられるように配慮されています。例えばですが、5年生なのですが、台風、水の流れ、災害、このような流れで単元構成されています。水というところを中心に、子供たちがイメージしやすいようになっていることから、全単元で学んだ知識が、そのような見方、考え方に生かせるようになっております。

それ以外にも4年生でいきますと、閉じ込められた空気と水の性質、物の温度の体積というところでも、体積という部分に着目しているような形になっております。

それから、身近な事象を扱ったり、単元の初めにある既習内容の振り返りや上位学年、これ上位学年というのは、信教さんで言いますと、中学校のほうの単元を扱っているのですが、学習内容を単元の終わりに提示することによって、関連性や連続性を意識した見方、考え方が広がるように配慮されています。

例えば経験のある導入というところですが、5年生の振り子のところなのですが、信教だけがブランコを扱っています。小学校でいきますと、ブランコは必ず載っているものなのですが、そのところから入ったりとか、あと6年生の物の燃え方では、飯ごう炊飯のまきのところから、これもう一社、たしか東京書籍さんかどこかがそんな形で入っていますけれども、それ以外はランタンとか、そういうちょっと身近ではないようなところで入っていますので、そういう意味でも子供たちが身近な教材というか、経験から物事に入っていけるような形に構成されているところがありました。

それから、5つ目なのですが、植物分野で長野県の冷涼な気候において、植物の生育状況に合わせた学習ができるように、単元配列に配慮がなされ、年間を通して栽培等の見通しが教科書に記載されています。長野県に合ったその種まきの時期というものが明確に示されています。地域によって微妙に違うところはあるかもしれませんが、初めて理科を持った先生方、とてもこれ役に立つものなのかなと思います。特に3年生では、植物、動物の成長を扱う単元が多く、大体春、夏、秋の初めあたりに集中して取り組むような形で配慮されています。

6つ目としましては、挿絵、写真、図表等の内容は本文と関連が密に図られており、精選されたレ

イアウトで焦点化されていると。信教さんの教科書ですけれども、1つサイズ、A B判という形でちょっとサイズが小さいのですけれども、一目で全体の教科書が目に入るかなと、A 4判になりますと、ちょっと上のほうとか下のほうが一目で目に入りにくいところがあるかなと思います。そのような形で教科書の記述と、それから挿絵とか写真というものが視覚的にすぐ見てつなぐことができたりとか、ほかのところに目移りしないような形のレイアウトにされているのかなと思いました。

最後に、子供の言葉で端的に結果や振り返りが書かれていることは、結果や振り返りの観点が明確になり、自分の考えを伝える表現力の向上が期待できると、なかなかどういう観点で物事を見ていいのか、どういう観点で答えていいのかという部分、なかなか小学校、最初の指導のところが大変なのですけれども、信教さんのところでいきますと、そういうものを3年から6年間繰り返して見て行く中で、こういう観点で見たら、こういう表現をしたらいいだろうというような形で表現力というものがついていくのではないかなというふうに感じました。

委員の先生方ともいろいろ話をしながらやりましたけれども、やはり現場の先生方の考えというのがその教科書の中に生かされているのではないかな、そんな形の教科書だなという形で、皆さんそういうところも評価はいたしました。

以上の理由によって、信州教育出版社の「楽しい理科」を選定させていただきました。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、ただいま報告いただきました理科につきまして、ご協議をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員 信教の理科の教科書の一番の泣きどころは、写真が美しくないという、これは東京書籍と比べれば、もう格段の差があるのだよね。今、一番心配しているのは、QRコードから入って行って、データコンテンツの映像、写真が出てくるわけだけれども、東京書籍と比べてどうなのかということをお聞きしたいと思います。

○理科教科責任者 ご指摘の形、信教さんのほうの本の写真とかは若干赤いかなという感じがします。だから、その明瞭という部分は、うんと思うところはあるかもしれませんが、先ほど言った形のレイアウトという意味では、とてもよかったかなと。

QRコードのほうですけれども、信教さんもついてはいるのですけれども、NHKのほうの何とかというその番組のほうに飛ぶような形になっています。東京書籍さんのほうのQRコードで調べいきますと、やはり教科書と同じように鮮明ですね。鮮明でとてもきれいです。ただ、このところではやはりきれいという部分でいきますと、やっぱり先ほど言っていた目移りするというか、本来の目的ではないようなところにも行ってしまう場合もあるかなと思いますので、そういう意味でもぜひ入れていてもらいたいところはありますが、内容は絞っていきながらということまでは大丈夫かなと思っています。

○委員 毎回、この信教の教科書をどうするかということについての議論は、先ほど説明があったように、単元構成とか配列が長野県の気候風土に合っている、それが一番の押しなのだよ。だから、写真と今の気候風土に合っているというのをてんびんにかけても、単元構成が優れているというふうに軍配が上がったということで判断していいのでしょうか。

○理科教科責任者 そうですね。とにかく使いやすさがあります、この教科書については。私も何回も教えましたけれども、本当に初めて理科を持つという先生方でも分かりやすい、展開が分かりやすいというのは評判ありますので、そういう意味ではとてもいい教科書だと思っています。

○会長代行（副会長） お願いします。

○委員 SDG s について、単元ごとに関わる項目を示している教科書が多くあるのですが、信教出版社は、6年の最後にだけ触れられているだけでいいのです。理科においてはあまりSDG sを意識する必要はないのですか。

○理科教科責任者 SDG s ですけども、いろんな項目がありますが、その中での自然という部分のところに行きますと、その教科の中で扱う部分が多くなっております。それを最終的にまとめるのが多分6年生の末のところ、SDG sの項目があるのかなと思っています。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） それでは、ここで選定に入りたいと思います。

理科につきましては、信州教育出版社の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

賛成多数と認められますので、理科につきましては、信州教育出版社の教科書を選定することといたします。どうもありがとうございました。

○会長代行（副会長） では、後半の部を進めたいと思います。

まず、生活について担当していただきました調査研究委員長さん、報告をお願いいたします。座ってお願いします。

○生活教科責任者 こんにちは。生活科の教科書を担当させていただきました北小学校の春原と申します。よろしくお願いいたします。

では、生活科の教科書について、選択教科書、選択した理由について述べさせていただきます。

まず、選択した教科書ですけども、信州教育出版社の「あおぞら」、「そよかぜ」の教科書でございます。理由ですけども、生活科という教科です。具体的な体験を通して、具体的な体験というのは、実際に見る、聞く、触れる、つくる、探す、育てる、遊ぶというようなものがありますけれども、それらの体験を通して、自立し、資質・能力を育てることが生活科の学習指導要領の解説に書

かれております。生活科で育てる資質・能力とは、自立し子供たちの生活を豊かにしていくことでございます。生活を豊かにしていくということは、生活科での学びを実生活に生かして、よりよい生活を子供たちが創造していく。それから、今までの自分たちの生活に多様性を増していくということを狙いとした教科でございます。

信教の教科書についてです。まず、長野県の風土に合っています。四季を通して繰り返し同じ対象への働きかけがあります。動物だったり、身の回りの景色だったり、遊びだったり、地域の行事だったり、繰り返し四季を通じて同じことに直接体験を通して働きかけています。自然事象や自分自身への気づき、社会事象に思いも徐々に深めていくことができるように配慮されています。それから、活動に幅を大変持たせる展開となっておりまして、児童の願いやその学校の環境に応じて多様な学習が展開されるように配慮されております。例えば動物を飼うという単元でしたら、ヤギでもいいしカナヘビでもいいし、ヤゴでもいいし、ウサギでもいいし、モルモットでもいいしということで、いろいろな飼えそうな動物の紹介がされています。

そして、見開きの大きな絵や写真、吹き出しやイラストは、児童自身が活動について想像を広げたり様々な発想を持ち活動したりできるように効果的に配慮されています。例えば大きなこんなヤギさんの写真があるのですけれども、私も以前、子供たちとこれを見てヤギを飼ったことがあるのですけれども、ヤギ飼ってみたいなんていうふう子供たちが思える写真かと思います。そのほかにもこんなのもそうですね。見開きを大きく、秋ですよということを前面に打ち出して、落ち葉で遊びたいとか、秋の自然の中に繰り出してみたいなというような子供たちの思いをかき立てるような写真が掲載されています。

それから、見開き2ページの写真と冊子になっておりまして、導入から振り返りまで、児童の思考が深まるように小単元が構成されています。見開き2ページのところで導入があって、一番最後、こんなふうに振り返りしましょうよということで教科書が構成されています。文字の分量も低学年の児童にとっては適切かと思います。

それから、今回新たに、教科書にはついておりませんが、付録のところで2次元コードを掲載して、そこをピットとやると図鑑等が閲覧できるように工夫されておりました。その図鑑も見ましたけれども、児童にとって本当に身近な植物や動物が掲載されていました。

3つ目です。長野県の風土をととても取り上げているということで、児童にとってとても身近な自然や地域に関心を向けることができます。生活科修了後の3年生以降の理解や社会、総合的な学習の時間の学習にもスムーズに関連づけられる内容にもなっております。

そして、4つ目です。長野県下の学校の実践を通して編集されています。地域に根差した単元の構成と学習内容が掲載されており、児童を取り巻く環境や生活の実際と密接に関連しています。自身の生活を見詰め、生活を豊かにすることが期待できます。また、地域を学ぶということで、児童の地域への誇りを育むことも期待できると考えます。

以上のことから、この地域の児童が使用する教科書としては、最も適切であると考えて、こちらの信教出版の生活の教科書を選択いたしました。

以上でございます。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

ただいま報告いただきました生活につきまして、ご協議をいただきたいと思います。

ご意見、ご質問よろしくお願いします。

○委員 信教出版の魅力は、理科と同じように長野県の風土が使われていて、特に生活科については実践が使われていますよね。すごくいいなと思っています。

ただ、一つ報告書で気になったのが、2次元コードを新たに掲載してあるのですけれども、今までなかったということですね。

○生活教科責任者 そうです。教科書の中には今回も特に取り入れていないです。何か別冊みたいなところでついていました。付録みたいなところで。

○委員 他社はもう2次元コードは結構取り入れているのだけれども、果たしてこれがよさと言えるのかなって思うのですが、中身はちょっと見ていないのですけれども。

○生活教科責任者 雨の日とか、実際に行ってみて、植物を取ってきて、これ何だろうというときに、クロームブックでQRコードをやってみて、これは合うというふうに、身近な植物が幾つか載っていたので、そこで子供たちの役に立つかなということは思いました。

他社のものとかでやってみると、全然全くヒットしなかったり、幅が広がり過ぎて子供たちが迷うような懸念されるところがあったのですけれども、信教の2次元コードは身近で焦点が絞ってあったということです。

○委員 数は少なくとも中身がいいということ。

○生活教科責任者 そのとおりです。

○委員 分かりました。

○会長代行（副会長） お願いします。

○委員 一番最後の4番の項目のところで、長野県下の学校の実践を通して編集されというのは、これはどこからというか、要するに教科書を、この7社かな、並べた中で、実践から出されているというのはどこからその情報を取られたかということ。

○生活教科責任者 やはり実践が取ったというのは、自分もやってきたのですけれども、他社と比べて川遊びは他社にはなかったですね。川遊びだとか、例えば大きな動物を飼うとか、そういうものが他社の教科書にはありませんでした。

それから、アサガオ一つ取っても、育て方ですね。今、アサガオって鉢買ってきて種まいてというやり方ではなくて、鉢も探してきて、棒も探してきてやってみようというようなことも載っていたのは信教の教科書だけでした。そんなことが先生方の今まで積み重ねてきた実践から教科書が編集され

ているということをととても感じました。

○委員 生活科の教科書で私一番大事なのは、動機づけだと思うのです。子供たちが自分の目で見、調べて楽しいなと思ったり、それによって学びを深めていくということが一番で、その動機づけがきちっとできるような、そういう内容が信教が優れているという判断でいいのでしょうか。

○生活教科責任者 はい。例えば、春の贈り物とか春探しのページ一つ取っても、やはりここではツクシを煮たりしているのですけれども、ツクシを煮たり、ハコベがあるよとかノビルがあるよ、身の回りにある物がここで紹介されていることで、これも見たことあるよという身近さが一つの動機につながるかなと思います。

さらに、教科書にないものも、ノビルのほかにこんなものもあったよというようなことで、一番身の回りにあるものから入っていくというところで、子供たち実生活に近いところが動機づけにつながるかなということを感じました。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、選定に入りたいと思います。

生活につきましては、信州教育出版社を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

では、生活については信州教育出版社ということで決定いたしました。ありがとうございます。

では、音楽についてお願いしたいと思います。

それでは、委員長さんの発表をお願いします。

○音楽教科責任者 音楽の担当をさせていただきました長門小学校、山口でございます。よろしくお願ひいたします。

教科書ですが、教育出版社、教育芸術社の2社から、調査研究委員では教育芸術社を選出させていただきました。

各社とも、教育の目標からの配慮がなされており、系統的、発展的な題材構成、音楽的な見方、考え方を働かせながら音楽活動ができるように配慮されておりました。

選定理由書の③にも書かせていただき適当と認めた理由2の（3）にも関わる部分になりますが、5年生の教科書に両社とも「こいのぼり」が掲載されてございます。音楽活動を通して無理なく音楽を形づくっている要素を捉えることができるような工夫として、ここでは強弱を扱うようになっていますが、教育出版社では、「盛り上がるころをどのように歌ったらよいだろう」という工夫がございましたが、教育芸術社は強弱の効果について、意見を交換できるように具体的な手だてが「見つける」という項目で示されておりました。これは深い学びにつながる配慮だと考えております。

選定理由書の④に書かせていただきました内容の理解を深めるための工夫や配慮の一つとして、両

社とも5年生に「子守歌」が掲載されてございます。楽譜ですが、ミとラにフラットがついております。(フラットがついている旋律とついていない旋律の2つが広く知られている)教育芸術社はミとラにフラットがついているものとついていないものの2つの楽譜を目で見ても分かるような形で掲載してございます。教育出版社についてはフラットがついている楽譜のみでございました。

また、タブレット端末で学習をサポートできるコンテンツにつながり、音楽を聴いたりつくったり、リズムをたたいたりするなど、個に応じた学びができるように工夫され、動画では、再生速度を変えられるようになっており、個の学びの段階に応じた配慮がなされておりました。

続きまして、選定理由書の⑥に関わるところでございます。指導と評価の一体化を図るための配慮としまして、題材の狙い、観点別学習活動、学習の狙いが明確に示され、学習マップ、巻末には振り返りのページが設けられており、各題材、その教材を通して何を学んだのかまた、1年間で何を学んだか児童が分かるようになっていているというところが優れていると思います。

最後ですけれども、多様な鑑賞教材が掲載されております。比較的な鑑賞を設けているなどありましたが、中学校への学習の結びつき次につながる活動、また将来につながる活動というような配慮がなされているところが優れていると委員のほうでは判断いたしました。

以上でございます。

○会長代行(副会長) ありがとうございます。

それでは、ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

○委員 選定した理由の④番、先ほどお話あったかもしれないのですけれども、何かこのユニバーサルデザインを取り入れて、特に教芸のほうがよくったなというところを聞かせてください。

○音楽教科責任者 教育芸術社も教育出版社もそうですが、大変ここについては配慮がなされておりました。視覚的な弱さを持っているお子さんに対しての配慮もかなりされていると思います。色が捉えやすかったり見やすい配置、子供たちに学習させるために「見つける」「考える」「演奏する」「つくる」というところが分かるようにくくってあるとか、字が浮くような形で後ろの色が工夫されているなど、大変着目しやすいような工夫されてございました。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 教芸の学習活動が、つくる、考える、歌う、演奏をつくるというふうに段階的になっているではないですか。そこはすごい魅力だと感じています。思考力、判断力、表現力に通ずるのに十分だなと思っているのですが、先生、今教科書お持ちですか。協働的な学習がイラストや写真で示されているというのだけでも、そこの部分が分からず教えていただこうかなと思っています。

○音楽教科責任者 子供たちに関わり合うような図があるのでございますけれども……

○委員 そこがはっきりしていれば。

○音楽教科責任者 例えば、グループにわかれて呼びかけと答えで歌う場合、このように具体的な活動がイラストで示されていたりとか、あと話合いの活動がちゃんとこの子供たちがいるように説明されていたりとかというところが。

※5年生の教科書の協働的な学習のイラストを示して説明する（P37図）

○委員 写真版もありますか。

○音楽教科責任者 写真版はなかった。図ですね。

○委員 イラストね。

○音楽教科責任者 イラストがありました。

○委員 分かりました。ありがとうございました。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） ありがとうございました。

それでは、選定に入ります。音楽につきましては、教育芸術社の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございました。

賛成多数と認められますので、教育芸術社に決定ということになりました。ありがとうございました。

続きまして、図画工作について担当していただきました調査研究委員長さんから報告をお願いいたします。

○図画工作教科責任者 豊殿小学校の教頭をしています千原と申します。よろしくお願いいたします。

図画工作グループでは、調査研究調査員としては、日本文教出版の教科書を次年度の教科用図書に考えております。本図画工作科は、子供たちの多様性を大事にしていきたいと思っています。とはいえ、大事にするからこそ何をやっているかということが分からないのでは授業になりませんので、まず子供たちが今回学習指導要領で明確になっている知識というものを明確に子供たちが意識していくということが大事になってくるのではないかなと思います。それは、子供たちに与えるものではなくて、授業者が子供たちが気づいている知識に関わるよさをき、取り上げて、子供たちが、この視点で追求すれば、自分たちの表現は高まっていくのだかということを知識として理解・習得し、それを使って想像・技能を働かせ、また思考・判断をして発想・構想を広げていくということを大事にし、それが自分の力として身についたのだという最後に振り返りをしていくという授業構造を願っています。

そう考えると、図画工作の教科書の日本文教出版さんのほうでは、まず素材や材料で体験をし、そ

の中で子供たちが気づいたことを取り上げ、それを子供たちの造形的な視点という言葉で表現していますが、子供たちが造形的な形のおもしろさや、色のおもしろさなどに気づいたことを取り上げて、そこから「何ができるの」「どんなことができるの」「どんな思考が繰り広げられるの」ということを授業展開の中で生かしていけるという題材のつくり方になっているのではないかなというように思います。

最後に、今回の教科書で色濃く出るのは、全ての題材の最後に鑑賞が位置づけられていることです。鑑賞と表現が関連することが今回学習指導要領の改訂で大きな位置づけになっているわけですが、それがやはりどの題材でも、最後に鑑賞し、子供たちの学びとして自覚できるような展開に工夫されているように思います。それが最終的には、自分の心を豊かにすること、あるいは、社会の中でのいろいろな形や色のよさを感じていけるような子供たちの育成、つまりは、世の中に出ていく心豊かな人間性の育成につながっていく題材の展開になっているのではないかと思います。

以上の理由から、日本文教出版の教科書を委員としては選定しました。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

○委員 子供たちが端末を使ってつぼ焼きをされているのはすごいですよね。私も気に入りました。

タブレット端末利用で示せる内容については、両社差はないですか。

○図画工作教科責任者 図画工作の中での扱いには、基本的に差はないと思います。ただ、学習指導要領の最後の取扱いの留意事項の中で、体験を大事にしている本教科においては、本当に端末を使うことの価値を吟味するよう明記されています。具体的に言うと、土に触れたことのない子が土の題材をやって何を感じられるかということですよね。と考えると、必ずしも端末を使っていくことよりも、情報収集するとか、思考・判断する中で端末を使う理由をと考えていくと、どちらの教科書もそこには差はないと思います。

○委員 1の調査票のところを見たときに、2番の児童の学習活動への配慮の部分と、3の学習指導への背景の部分が分からないので、単純にただ悪い例なのですけれども、二重丸の数を比較してしまうと、子供の配慮のほうでは二重丸が開隆堂のほうが多いのですよね。それから、学習指導への配慮のほうで日文のほうが多いということで、その中でやっぱり学習指導の配慮のほうがうんと大事になるという部分を聞かせてください。

○図画工作教科責任者 学習指導、子供の配慮についてはどちらも正直言うと差はないと思っています。開隆堂さんの教科書は、とても視覚的に魅力を感じます。なぜかと言うと、すごく作品の完成度が高いし色が鮮やかなので、子供たちの心をぐっと引き寄せるのではないかなというふうに思います。だから、これをつくりたいというふうに思って意欲を駆り立てるのではないかなと思うのですが、今度、ではそれを授業者が子供に実際どう下ろしたらよいのかとか、どう題材を展開していくのかという

ことを考えたときには、やはり作品主義と言っではいけないと思うのですけれども、「こういう作品をつくらせたいからやりましょうね」といった授業展開になりかねないのではないかと思います。

一方、日文さんのほうは、材料や表現に触れたときに「どんなことが感じられるのか」「あなたはどんなことが要素だと思っているのか」、吹き出しのところにもあるのですけれども、「ではそれを使って、僕はこんなことに気づいた」とか、「こんなことできそうだな」とか「こういう形のよさがあるのだ」ということを拾い上げるなどの授業を子供たちの意識の流れに添って展開できるのは、日文さんのほうかと思っています。その意味では、若い先生や図画工作を得意としない先生にもよいと思います。ですから、この二重丸がとてもつけづらいところではあるのですけれども、説得できるようにするために差をつけなければいけないのかなと思って二重丸のほうをつけさせていただきました。

○委員 ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○委員 図工の教科書は、先生方の活用具合を見ていると、ほかの教科に比べると授業中に教科書を開く場面が一番少ない教科だなんて先生方の授業を見ていると思うのですが、その中で、児童が働かせる造形的な見方、考え方を示してあるのですけれども、その部分をこの日文さんは授業をやっている上でどう効果が授業中あるかなと思われませんか。

○委員 ありがとうございます。現行の教科書も同じなのですが、その吹き出しが子供たちに気づいてほしい造形的な視点、あるいは思考していくときの考えの根拠になっているところです。ですので、それを先生が「こんなこと子供たちが言いそうだな」というように捉えておくと、そこから応用された広がりのある子供たちの造形的な視点に関わるつぶやきを拾いやすくなるのではないかなと思います。

そうすると、「このことは形から捉えていることなのだな」「色から捉えているのだな」ということを読み取れるようになり、「あなたはそういうことに気づいたのだね」「こんな形のよさがあるって分かったから、みんなどうだろうか」「それらを何か生かせそうかな」というふう評価したり指導したりして、授業を、どんどん子供たちの内発的な活動に促していくことができやすくなるのではないかなと思います。

○会長代行（副会長） よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） では、選定に入ります。

図画工作について、日本文教出版株式会社の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

図画工作については、日文について決定ということで決まりました。ありがとうございます。

では、お座りいただいて、家庭について、担当していただきました委員長さんから報告をお願いい

たします。

○家庭教科責任者 豊殿小学校の高見澤と申します。家庭科を担当させていただきました。よろしく
お願いいたします。

調査票の1のところにあり、二重丸、丸をつけさせていただきました。適当と認めた理由の
特に優れているという点について、お話しさせていただきたいと思います。

両教科書出版社とも、生活をよくしよう、工夫する資質能力を育成し、課題を解決する力と実践的
な態度を育てることができるように構成されておりました。

開隆堂さんについては、例えば2の(1)の衣食住の題材配列ですが、衣生活の学習について、5
年生でなぜ衣服を着るのか、衣服の働きを知って、季節に合った、合ったとは、具体的には温かくと
いう着方について学び、住生活についても暖かい住環境について学び、それを生かして、6年生では
逆に、涼しくするにはという観点が入っていて、衣生活、住生活について開隆堂さんのほうが詳しく
分類して扱っております。

(2)の生活を工夫創造するような題材構成においてですが、気づく、見つける、分かる、できる、
生かす、深めるの段階が冒頭に示されていることで、開隆堂さんのほうがより学びの視点が分かりや
すいというふうに考えました。

それから、ミシンの実習の扱う時期が、東書さんは3学期に扱うようになっていますが、開隆堂さ
んは2学期に扱えるような流れになっています。家庭科は、技能教科でありますので、技能を高める
ということも目的にあります。早い段階でミシンに触れることで、子供たち、が興味を持ったり技能
の力が上がったりと考えました。配列の点で、開隆堂さんがいいとを考えます。

それから、実習に伴って(4)安全面や衛生面への配慮については、両社とも安全面、衛生面の指
導に配慮されて扱っておりますが、より開隆堂さんのほうが、例えばミシンの扱いのときには、運ぶ
ときのことで詳しくその場で指示できるような内容になっています。巻末にも、全体をまとめて、
いつでも実習のたびに見られるようなまとめになっておりまして、授業に使いやすいというふうに考
えました。

それから、学習指導への配慮、3の(6)番ですけれども、できたかなとか学習を振り返ろうのチ
ェック表と生活に生かそうの記述で、まとめや評価の観点が明確になるように工夫されていたり、記
述や評価の量も、教科書の中にもそういう部分があったりして、開隆堂さんは学習のまとめについ
ても、教科書の中で配慮されているというふうに考えました。

以上の点から、開隆堂さんのほうがよいと考えました。それから家庭科の授業は、専科教員がほと
んどおりませんで、学級担任の先生もしくは専科でも音楽専科の先生が指導している場合が多いです。
その場合にも授業を進めるのに開隆堂さんのほうがしやすいと考えて、委員会では開隆堂のほうを選
択させていただきました。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

ご質問、ご意見いただけますか。

○委員 両社ともとても丁寧につくられていますよね。その分、ちょっと気になるのは、文字がぎっしり詰まっているページも多くあると思うのですが、その点については両社差はありますか。

○家庭教科責任者 両社について、キャリア教育内容にも触れてとかいろいろなものを含めてすごく情報量が多いと思いますが、資料集はあまり使わないので、情報はあってありがたいと思います。開隆堂さんは実習の流れを見開き2ページで、横に流れでパッと見られるようになっていて、その配列が統一されています。そういう点でも、開隆堂さんのほうが子供たちにとって分かりやすいのではないかというふうに考えました。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。

○委員 教科書お持ちであれば、もう一点すみません。生活の見方、考え方の、開隆堂さんの4つの視点がどこの部分を指すのでしょうか。ちょっと見ても分からない。

○家庭教科責任者 この初めのクローバーの下に、ここに4つ。

○委員 分かりました。

○家庭教科責任者 このクローバーの下のが4つで、これはみんな書いてあるのですけれども、その内容によっては2つとか1つとか、そういう場合があります。

○委員 ありがとうございます。

○会長代行（副会長） よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） それでは、選定に入ります。

家庭について、開隆堂の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

賛成多数と認められますので、家庭については開隆堂の教科書を選定することに決定しました。ありがとうございます。

○会長代行（副会長） では、お願いします。

保健について担当していただきました調査研究委員長さんから報告をよろしくお願いします。

○保健教科責任者 皆さん、こんにちは。では、保健体育お願いいたします。

保健体育のほうですが、6社の教科書を比較させていただきました。選定理由は資料に挙げさせていただきましたが、全社ともに採択の基準は十分に満たしていると評価いたしました。その中で、最

終的には、東京書籍の「新しい保健」を選定いたしました。その理由としては、まず子供たちが学習の見通しを持って取り組めるよう、1時間の流れが非常に見やすい構成になっているという点です。4つのステップ、①、気づく・見つける、②、調べる・解決する、③、深める・伝える、④、まとめるという構成になっていまして、この一つ一つはとても分かりやすく提示されています。子供たちが主体的に学び、友達と関わって学ぶことが期待できると考えました。また、まとめる段階では、記述欄が充実しており、自分の考えをきちんと書けるようになっています。この1冊の教科書があれば、自分の学習を振り返り、学習の過程を積み上げて記録するということもでき、自己評価、また教師の評価としても活用できるのではないか、その点で使いやすいということで優れているのではないかと考えています。

次に、写真や図表、挿絵などがとても見やすく、児童の興味・関心に合わせて工夫されているという点がよいと考えました。大きな紙面でUD文字や重要な語句がとても見やすく、また表紙などに出てくるキャラクターですが、外国籍の子供とか、あと車椅子の子供が自然に入っていて、多様性を意識しているということもいいなというふうに感じました。

内容が具体的で、関連づけた他教科への生活、また運動にもどの子も関心を持てるような工夫があり、保健体育で目指す生涯にわたって豊かなスポーツライフにつながることを期待できるのではないかと感じました。

以上の点から、選定委員会では、東京書籍を選定するということにしました。

以上になります。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

では、ご意見、ご質問をお願いします。

○委員 全社の中で東京書籍が、私も気に入っているのですよ、この教科書。一番いいのは、学習活動が段階を追って進められるようになっていると、大げさに言うと、教師がいなくても子供だけでも学習進められますね。すごく丁寧につくられて大したものだと思います。

記述欄が多いというのもいいのですが、記述欄が多いというのは、他社と比べて多いという理解でいいですか。

○保健教科責任者 他社のものも記述欄はきちんと設定されているのですが、書くところが、今はどっちかというとなるべく時間をかけないように簡単にと、語句を抜き書きしましょうみたいなものが多いのですが、最後のまとめなので、自分の考えを書けるというような取扱い方をしているところが私たちがいいなというふうに思いました。

○委員 振り返り、まとめのところのその記述欄は、他社にはないところ、魅力でもあるということだね。

○保健教科責任者 そうですね。充実した学習により、最後には全部をまとめて自分の考えはどうですかというところまでずっと発展した学習を求めているのかなというふうに見ていました。

○委員 分かりました。ありがとうございました。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） それでは、選定に入りたいと思います。

保健について東京書籍の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） ありがとうございました。

賛成多数と認められますので、保健については東京書籍の教科書を選定することといたします。ありがとうございました。

○会長代行（副会長） それでは、道徳につきまして担当していただいた調査研究委員長さんから報告をお願いします。

○道徳教科責任者 よろしく願いいたします。

道徳の教科書の選定に当たって、私を含め5名の委員で研究を進めました。研究の結果は、調査票の1番のところ、◎二重丸がたくさんついた業者、光村図書出版の「きみがいちばんひかるとき」を選定しようという結果になりました。今年まで使っている教科書は、東京書籍の教科書でありますので、ここで教科書の選定を変えるという大きな舵取りをしたわけなので、そのこのところの説明をします。

前回の選定の議事録を読みました。子供にとってその教科書がどうなのか、また教師にとってどうなのか、道徳のねらいにとってどうなのか、その3点を大事に考えての選定ということで、その立場は今回も変わっておりません。そして、どうして今回東書から光村を選んだかの決定的な理由は、東京書籍さんの教科書、改訂前は一番最後の深めるところの発問が行為を求める発問ではなかったのですけれども、改訂された後の発問、例えば皆さんよく御存じの「はしのうえのおおかみ」、1年生の教材で申し上げますと、旧教科書の場合は、「今日の学習で心に残ったことを発表しましょう」とありました。改訂された今回の東書の最後の深めるところの発問は、「周りの人に優しく、親切にできたことはありますか」と行為を求める発問に置き換わりました。ここは、ちょっと決定的な違いで、それまで1時間かけて自分の内面を深め、それから友達の見解を聞いて、自分の思いを広めて、これからこういうふうになりたいなという自分をイメージしたところで、この行為を求める発問をされたのでは、その授業はどうなんだろうというところから議論が始まりました。

それで、いろいろ東書について、それまでいいと思って採択していた教科書ですので調べました。「何々したことはありますか」、「何々を考えたことはありますか」と行為を求めるこの発問が1年生の教科書では27教材中11教材、約40%、~~これ~~全学年なくて申し訳ないのですけれども、2年生だと34教

材中12教材、35%、高学年、5年生になりますと、33教材中10教材、約30%、30～40%がこの行為を求める発問となっていて、この教科書を採択してこれから数年間使っていくのは、あまりよくないのではないかというのが委員会での判断です。

それで、光村図書出版がどうして選定されたかと言いますと、この選定した理由のところに3つ書きましたが、まず①番のところは、学びの主体は児童であります、教員の立場、例えば私の学校にも毎年初任の先生が来るのですけれども、キャリアステージが—基礎形成期5年以内の先生方、そういう先生方にも道德の授業展開が、どういうふうに進めていけばいいかがとてもイメージしやすい教科書の構成になっていました。それは、一番下の③番、主体的な学びを大切にするにもつながるのですけれども、各学年の第1教材では、よくオリエンテーリングってあるのですけれども、「道德が始まるよ」というようなコーナーがありまして、道德ではどんなことを学んでいけばいいのか、何を学んでいけばいいのか、算数ですとか、そういうものと違って答えを出す教科ではないので、どういうことを学びとして捉えてこれから進んでいけばいいのか、子供にも分かる言葉でも内容、項目が示されています。

それから、①番のほうに戻りますと、教材は基本的に「導入」と「教材」と「学習の手引」という構成になっていまして、導入のところでは、道德の価値を自分事として、それぞれの時間をスタートするためにキャラクターが問いかけをしてくれています。その問いかけからスタートすると、自分のこういうことってどうなのかということをこれから勉強していくのだなというような、ちょっと自分事に近寄せる発問ができると思います。それは、ベテランの先生もそうですけれども、特にお若い先生、まだ道德ってどういうふうに指導したらいいか分からない先生においても、子供にとっても分かりやすいのですけれども、そういう先生たちにとっても大きな助けになると思います。

それから、教材がありまして、その後、学習の手引というところには、「考えよう、話し合おう」というコーナーが設けられており、考えようというところには、中心となる道德的価値に迫る発問例、発問例というか、子供が考えたいことと、それからみんなで話し合って考えを深めていきたいというような、そういう発問が2つ出ているのですけれども、これも子供にとっても分かりやすいとイコールで、指導する側にとっても道德的な価値から外れない、誰がどこでやっても多分、道德的価値を踏み外さないであろう発問がここに用意されているということが魅力でした。

あと、今までの指導の経験が4年間ぐらい積み重なってきた東書から離れるわけですので、先生たちには年間指導計画をまた作成し直していただかなければいけないという負荷がかかるので、そちらについても調べたのですけれども、各社ひな形はついております。それに自分たちの学校や自分たちの学年に合わせた、児童の生活場面を捉えた教材が複数用意されていますので、差し替えができます。差し替えることによって、その学校に合わせた年間指導計画の作成を、そんなに苦勞しなくても作成できるだろうという見通しを持って考えました。

細かいところはこの調査票の適当と認めた理由のところをお読みいただければと思っているのです

けれども、たくさんある項目の中で光村図書が特に優れていると◎二重丸のついた理由がそちらのほうに明記されています。光村さんは、国語の教科書を私たちは使っていますので、見慣れている感じなのですが、道徳が読み取りに終わってはいけないという、それが心配事としてありまして、教材が長くないとか、そういうこともみんなで考えたのですけれども、光村さんのほうでもやっぱりそこが考えられていて、今まで出ていた同じ教材でも、道徳的価値を損ねない範囲で文章を見直しして掲載されています。ということで、余分な記述、省いてもいいような記述は省かれたものが提示されていました。

でありますので、私たち委員5人の中では、光村図書出版の「きみがいちばんひかるとき」の道徳の教科書を使って、子供と先生たちとで授業をつくり上げていってほしいという、そういう願いを持って選定いたしました。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

では、その報告についてご質問、ご意見、お願いいたします。

○委員 道徳の授業は、やはり各自の多様な価値観を出し合って深めていくことが大事だと思います。それがやはり主体的、対話的、深い学びということだと思います。今、ご説明いただいて、光村図書は、誘導しない、引っ張らないというようなこととか、行為を求めることが少ないというような、私は、とてもいい視点で選んでもらったなというふうに思います。

一昔前には、実践化への動機づけという言葉があって、授業の終わりに、これからあなたはどうしますかということを強く求めるような時期があったのですね。それは、やっぱりよくないというふうに私は思っていますので、検討された内容は大変いい視点でやっていただいたと、光村に選んでいただいていたよかったです。

○委員 最初の話聞いて、よく分かりました。それで、この選定した理由のところの②の最後のところ、SDGs、要するにディベロップメント・ゴールズという、道徳にはあまり合わないかなって自分では思ってしまうのですが、最初の説明と随分変わってしまうところになるかと思うのですけれども、それが他社とどんなふうになっているのか、何かちょっと、ディベロップメント・ゴールズと道徳的価値というのは、何か自分の頭の中ではよくつながらないのですが、ちょっとそれをどんなふうに他社が扱っているのか教えていただきたいです。

○道徳教科責任者 どの会社も現代的な課題についての教材を取り込むということで研究されたようで、ほぼどの会社もこのSDGsに関わるものは学年で1教材は入っています。それについて、まだよく周知されていない部分を周知しながら、そういう世の中の一員として生活していくのだよという動機づけみたいな扱いとして入っていると思います。これは、文章の読み物教材ではなくて、場面が提示されていて、その場面において自分の実生活の中でどんな行為が関係しているとか、どんな行為を、どんな行動をしてみたいとか、自分のこの社会の中での在り方を考える教材として入っていたように思います。どの会社も入っています。

○委員 尚且つ、ちょっと道徳的な価値という部分と頭の中で相入れない部分があつて、それがこの売りに出てくるとちょっとあれっと思って引っかかりました。

○道徳教科責任者 そうですね。一応私たちも一生懸命考えて、やっぱり一番は命を大事にするいじめの課題ですとか、そういう現代的な、あとネットを問題としたいじめの問題ですとか、そういう教材をどこの会社もきちんと取り入れて、長野県のほうで選定されてきているので、大きくは変わらないと思っています。だけれども、これから私たちが生きていく中でのそのSDGsというものに関しての、これについて深く学べということが、その教材では無理だと思いますけれども、問題を投げかけて、自分の生き方とか在り方を見直していく、自分勝手に何をやっても、この地球は存続していくのだとか、環境問題は特に問題ないのだという生き方ではなくて、やはり一員として生きていくにはというところで、少し関わってくる部分があるのかなと捉えています。

○会長代行（副会長） ほかにいかがでしょうか。

○委員 光村さんのいいところの①番で、その導入部分の吹き出しの問いかけがいいというふうに書いてありますが、私もそのとおりだと思います。6社全部、最初の導入の吹き出しを全部洗ったところ、他の2つの会社にも吹き出しはあったのですが、発問になっていないのですよね。そう考えると、やっぱりこの発問によって、「よし、考えてみるかな」とか、「よし、では考えるぞ」という気持ちになっていくので、私もこの光村図書がいいなというふうに思いました。

○委員 私がこの3月までいた長野市では、光村の道徳の教科書を採用して、授業をやっていました。割と長野市とか長野上水内は、道徳という教科の授業に関して、教科担任制とか、シャッフル道徳といって、学級担任以外の先生が単発でその教材を教えるという場面が多々ありました。その場合、この光村の教科書を使っているときに、とても1時間そのクラスで出会った子供たちと、授業をやるとするのがやりやすい。その理由は、行為の反省や実践の意欲化という、何か学級担任が道徳を教えなければいけないというような、いわゆる学級活動とかクラスづくりへ結びつけるような、割と昔からの固定観念みたいなものを打破して、教科としての道徳の価値を、いろいろな先生がそのクラスで1時間ずつ教えるとかいったときに、この光村の教科書が、先生方が授業をやっていてとても教えやすいというのは感じていました。

ただ、今回の5人の委員の先生方は、光村で多分授業は実際はされていないかと思うのですけれども、今年度まで採用されていた東京書籍が、検討して2番手とか3番手ぐらいにいるのなら分かるのだけれども、◎二重丸の数がここまで、2つまで減った。何かちょっと駄目出しなんて言うてはいけないのですけれども、ここまで評価が下がっているという、その根本みたいな、さっき「はしのうえのおおかみ」で出されたと思うのですけれども、他に何か、5人の先生方がこの東京書籍で授業を今年度までやられていて、何かやっぱり引っかかるなどか、ちょっとやりづらいなというような要素があったら、もうちょっと教えていただければと思います。

○道徳教科責任者 やっぱり一番大事な授業の発問、私たちは発問で、どのように子供たちの思考が

深まったり広がったり、自分事として考えられるかというようなところから話が進んでいたの、結構早い段階で、この東書さんの改訂による、深める発問の変化を見取ってしまったから、そのほかの部分については、本当に深くまでは見切れていないということがあると思います。

どこの教科書も、挿絵も情緒的なものがあったり写真があったり、漫画があたり、どこの会社もちゃんとそこはできていますし、提示しやすいというところも本当に少しの差だと思うのです。でも、その発問とか中身に関わる部分というのは、大きなことだと委員は捉えたので、一番はやっぱりその、子供に授業の最後に道徳的価値を振り返りながら、自分の今後を考える、そのところが一番の話題になったもので、本当に←前回の採択の結果を見ますと、東書さんは◎二重丸がほとんどで、○丸が1個か2個外れているぐらいだったので、ちょっと差をつけ過ぎているかなとは思いますが、それは、ちょっと自分も反省しますが、でも一番の理由はそこにありますので。

○委員 委員長さん、教えてもらいたいのだけれども、道徳が教科として位置づいたときに、どういう資料を扱うかについては、学校で4クラス学級があった場合、その4つのクラスで同じ教材を使うなら、その教科書から離れたところから資料を持ってくるでもいいというルールあったよね。それはまだ生きているのかな。

○道徳教科責任者 前回もここで話題になっていると思いますけれども、「わたしたちの道」という信濃教育出版社が時間をかけて教材を見つけて、私たちが使いやすいように作った道徳資料集がありますので、そちらの教材と差し替えて使う学校もあります。なので、生きています。

○委員 そうですか。そういうことを考えると、今回、光村を選んでいただいたということはとてもいいことだけれども、そんなに厳しく考える必要はないと思うのよね。気楽にやってほしいなんてそういうことを言うと怒られてしまうかもしれないけれども、やはりそこに含みを持って、弾力的な運用をしていくことこそ、子供の側に立った道徳になるのではないかなと思います。

○道徳教科責任者 私たち委員はやっぱりいろんな先生のいろんな授業を見ていますので、本当に道徳に造詣が深くて、きちんと子供の意識を汲みながら、授業の終末を迎える授業、それから何をメインとして話し合わせればいいのかちょっと迷いながら子供の話し合いが進んでいて、ちょっと着地点がずれてしまった授業、いろいろ見えています。この光村の教科書ならば、いろんな年齢層のいろんなキャリアの先生が、さっき委員の先生が言ってくださった、担任でない教員が1時間その授業を持っても、何とか道徳的価値を踏み外さないで、そこに視点を当てながら授業の終末で、自分の生き方について考えていかれるだろうと踏んで、これを採択していて、先生たちは、本当に忙しくて、「先生、わたしたちの道もあるよ」なんて言うてはみるけれども、本当に、この教材だけは好きだから使いますという先生はいてくださるのですけれども、新しいお若い先生で、なかなかそこまで踏み込んで道徳ができる先生を育てなければいけないと思っていますけれども、基礎形成期の先生たちにはちょっとまだ難しいと思っています。

だから、ベテランの先生に、本当に幅広く、いい教材を持ち寄って年間計画に組み込んでもらうこ

とはとてもありがたいことです。その点でいうと、これはちょっと光村から話が飛んでしまうのだけれども、光文さんの教科書というのは、本当に理想的な授業をつくり出せる先生が使えばいい授業になるだろうという教科書でした。だけれども、私たちの全部の学校が取り入れると、必ず消化不良が起きて、45分の授業の中では、自分のこれからについて考えるところまで授業は進められないだろうという、深みはあるけれども、難しい教科書だということで、最後まで光文と光村で迷ったのですけれども、光村を選びました。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） いっぱい意見を出してもらいました。

それでは、選定に入りたいと思います。

道徳について、光村図書出版の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） 賛成多数と認められますので、道徳については光村出版社の教科書を選定することといたします。ありがとうございます。

そうすると、今度は作業手順になりますが、来年度はさきに話をしたように、1、3、5年は新しい光村ですが、2、4、6年は旧の東書で進むということになります。そこが今回のちょっと大変な実務なのですが、各教育委員会が把握して対応してもらうように、よろしくお願いします。ありがとうございました。

それでは、英語について担当していただきました委員長さんから報告をお願いいたします。

○英語教科責任者 上田市立丸子中央小学校の磯尾と申します。本日は、よろしくお願いいたします。

私ども委員は、東京書籍の「NEW HORIZON」を選定いたしました。「NEW HORIZON」を選定した理由は、単元のステージ構成がとても統一されているということがまず第1に挙げられます。Starting outというところで単元に慣れ親しむ。そして、You Turnということで定着を図る。Enjoy Communicationでコミュニケーションを楽しんだ後、世界の文化を知るということで、Over The Horizon、この教科書で学ぶ、教科書を使ってももちろん学んでいくのですけれども、英語を学ぶというより英語を学ぶことを通してどんな力をつけていったらいいのかというような、単元の見通しが持ちやすい構成になっているということが委員の間では評価が高かったです。

そして、英語を使った表現活動が無理なくできるように工夫されています。例えばこれはほかの教科書にはない特徴だったのですけれども、例えば単元で使うこの表現の、ちょっと見えにくいですが、自分の名前を紹介するところのブライアンというところが色つきで囲まれています。「I like P.E.」のP.E.のところがまた色つきで囲まれています。つまり、決まった表現から自分が表現

したいことを、ここを組み替えることによってどんどん言うことができるというような工夫がされています。ですので、自分が本当に表現したいことということを考えるような構成に工夫がされていますので、そこが子供たちにとって無理なく表現活動ができるように工夫されているのではないかと、いう意見がたくさん出ました。

そして、単元全体を通してなのですけれども、身近な話題から始まって、日本のこと、世界のこと、そして最後には国際的な問題へと発展するような構成になっているところも子供たちの視野が広がる活動が展開できるのではないかと考えました。

また、これ別冊なのですけれども、ここにデジタルマップというのがありまして、子供たちがクロームブックで読み込むと、世界のいろいろな地理とか食べ物とか、ぱっと見て、外の世界って楽しそうだな、この言葉学んでみたいなという興味・関心を本当に引くような内容になっています。もちろん他社の教科書でもそういった工夫はされているのですが、そういったことに一番ページを割いているのが東京書籍かなというふうに意見がたくさん出ました。

ですので、英語の学習ではあるのですけれども、社会科とかそういった他教科ともリンクさせて、子供たちが調べ学習ができるような構成になっていますので、主体的な学びの姿も期待できるのではないかと考えました。

あとは、これ実は Picture Dictionary ということで辞書になっています。これがきちんと別冊になっているのは、東京書籍だけです。例えば他社の教科書は、巻末のところに同じようなものがあるのですけれども、取り外しはできますが、いかんせん同じ紙質になっていますので、子供たちにとっては、取り外してもちょっとくちゃくちゃというふうになってしまう可能性があります。この教科書を今担当している先生方に聞いたら、この辞書をそのまま中学校に持って行ってくださいというふうにお願いをし、中学校1年生、2年生でも使用する単語がたくさん入っていますので、小中連携というところからもこれが保存がしやすいですし、中学生もいきなり太い辞書をやるよりは、小学校で慣れ親しんだ言葉を、イラストつきで書いてありますので、これをそのまま活用ができるということも大きな利点だということで意見として出されました。

あとは指導と評価の一体ということで、ここでこれができるようになるという Can do list、すぐ出てこなくてあれなのですけれども、それが Can do list の木みたいになっていて、それも非常に他社の教科書よりも、この単元でこれを学習していくというのがとても分かりやすい構成になっているというのも特徴の一つです。

あとは、デジタルコンテンツがとても豊富で、シェア、東京書籍を採用しているところも非常に多く実践もたくさんあります。ですから、外国語の苦手な先生方、担任の先生にとっても非常に使いやすい教科書だという意見も出ました。授業の展開も広がりが期待されます。

以上のことから東京書籍を委員の中では選定いたしました。

そして、これ見ていただいたらになりますが、A4判になっています。そして、書き込むところも

たくさんあります。委員の中では、「Here We Go!」、光村、こちらも意見としてはたくさん出ましたが、まずサイズです。子供たちにとっては、やはり書き込みがしやすいものが使いやすいのではないということと、あとはどうしてもこちら、あとの教科書も、3番の人気といいますか、選定したらということで意見が出た教科書なのですけれども、教育出版です。やはりサイズで、子供たちが書き込みがしにくいということや、やはりワークシートを別に用意するような必要がちょっとあるなど、補填的な学習もちょっと必要になってくるかなという意見が出ましたので、担任の負担、指導者の負担というのを大きく、ワークシートをよかれと思って用意しても、実際に子供たちの実態と合っていないということもありますので、東京書籍だと本当に自分たちの外国語の学習はこの1冊でしっかりと学べるという意見がたくさん出ました。

以上です。

○会長代行（副会長） ありがとうございます。

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○委員 ご説明よく分かりました。委員会で東書を選んでいただいたことについては、私一切問題ないと思います。

○会長代行（副会長） さらにご意見、ご質問ございますか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○会長代行（副会長） では、選定に入りたいと思います。

外国語について、東京書籍の教科書を選定することとしてよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

○会長代行（副会長） それでは、賛成多数と認められますので、外国語については東京書籍の教科書を選定することといたします。どうもありがとうございました。

では、ちょうど時間も予定どおりということになりました。皆様のご協力によりまして無事小学校用教科書について、議事が終了いたしました。

以上で、上小地区において令和6年度から使用する小学校教科書についての選定が終了いたしました。調査研究委員長さん、また今日はおいでになっておりませんが、各委員会の皆さんのご努力に敬意を表したいと思います。

○幹事長 大変長時間にわたりありがとうございました。本当にお忙しいところありがとうございました。

以上をもちまして、第2回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会を終了いたします。

本日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。